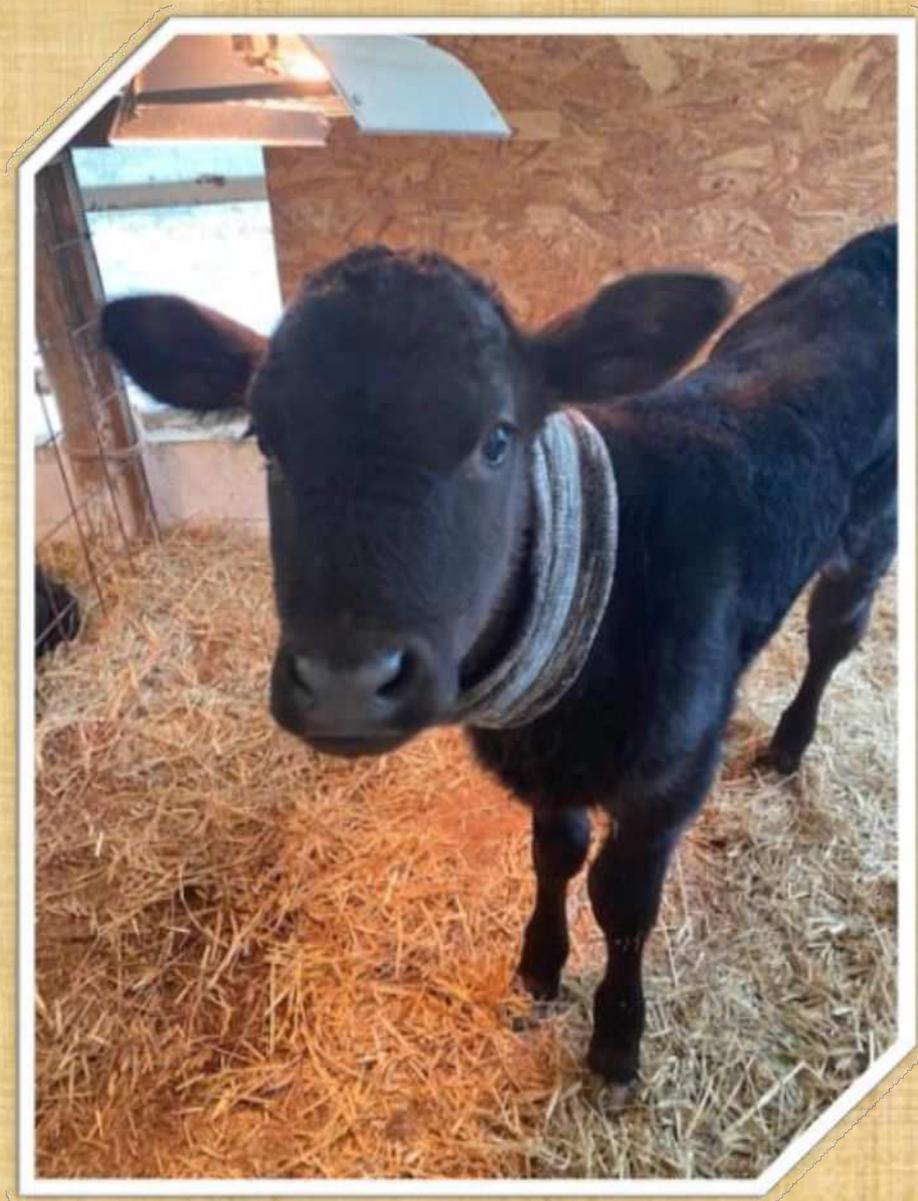


西松浦地域版

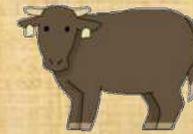
繁殖・肥育一貫経営

肥育素牛育成ガイドライン

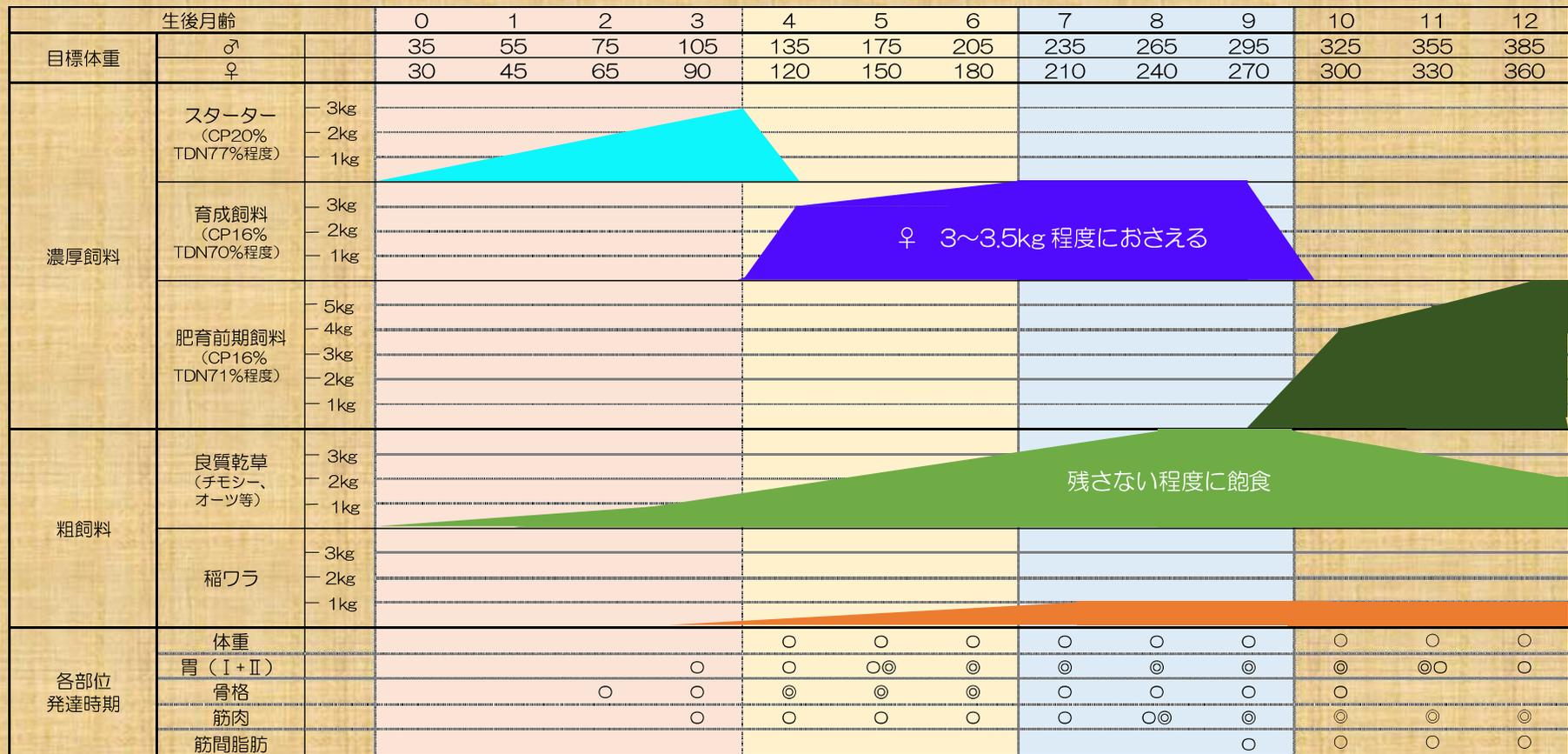


一貫体系向け肥育素牛飼料給与プログラム

～過肥にさせない腹づくり！優良肥育素牛を作るために～



※図は去勢の飼料量目安



👉 哺育期の管理のポイント

～親付けの場合～

- 子牛がずっと乳房に吸い付いている場合は母乳不足かも。追加哺乳（1～2L程度/日）を行きましょう！（できれば分離し人工哺育）
- 親の飼料の盗食をさせないようにしましょう。
- 母牛が分娩後極端に痩せる場合は増飼を。栄養不足は乳量・乳質に影響します。

～人工哺育の場合～

- 母牛から十分な免疫と、草を消化するための原虫・菌を受け取るために、1週間程度は母子同居させましょう。
- 代用乳の温度に注意（39℃～40℃）！冬場は温度が下がるため特に注意が必要。
- 哺乳瓶・乳首は毎回洗浄し、衛生的に保管しましょう。
- 幼いうちは3回程度に分けて飲ませましょう。1回あたりの哺乳時間が短いと胃や肺に負担がかかりますので、適度な時間で飲ませましょう。
- 哺乳瓶の高さは母牛の乳房の高さと同程度で自然哺乳に近い形にしましょう。
- 代用乳を切るときは、十分にスターターを摂取しているかを確認しましょう。

👉 育成前期の管理のポイント

- スターターと育成飼料の切り替えは、採食量と糞便の状況を見ながら行いましょう。
- 下痢をしやすい時期です。脱水には十分に注意しましょう。
- 粗飼料は柔らかく、栄養価の高い良質なものを給与しましょう。離乳直後の食い込みが悪い場合は、5cm程度に細断して給与しましょう。それ以下では胃壁への刺激が弱く、第1胃の発達に影響が出ます。
- 去勢は生後4～5ヶ月齢程度に実施しましょう。
- 群にする場合、月齢、体格、性別はなるべく揃え、できるだけ少頭数で管理し、ストレスの軽減を図りましょう。

👉 育成後期の管理のポイント

- 育成後期は肥育前期に向け、粗飼料主体の給与を行いましょ。牧草を主体にしつつ、腹づくりを行うために繊維含量が多い良質なワラと一緒に給与しましょう。
- 7ヶ月齢からは腹腔内脂肪や筋間脂肪が発達するため、濃厚飼料の多給は絶対にやめましょう。去勢で最大4kg程度、めずで最大3～3.5kg程度に抑え、不足する蛋白分は粗飼料で補いましょう。体重だけのっている牛ではなく、体高があり、腹ができた子牛を目指しましょう。
- 水が不足すると粗飼料の食い込みが悪くなります。水場を清掃して良質な水を豊富に飲めるようにしておきましょう。

清潔な牛舎環境こそ発育向上の第一歩！

滑らかな飼槽、きれいな水、乾いた牛床、風通しのよい牛舎



飼槽は毎日きれいに
しましょう！



ゆったり牛が座れる
環境づくりを♪

哺育・育成期の管理は、成牛になってからの枝肉成績や繁殖成績にも影響を及ぼします。なるべくストレスを与えない**清潔で衛生的な牛舎環境**を保つよう心がけましょう。

★Point★

- ・ウォーターカップ、飼槽は毎日掃除
- ・新鮮な飼料をこまめに給与
- ・牛が立ちっぱなし→牛床交換の合図！
- ・冬でも定期的な換気を行いましょ
- ・通路に落ちっぱなしの濃厚飼料や粗飼料はこまめに片づけましょ！
- ・蜘蛛の巣もしっかり撤去ましょ！

母牛の痩せすぎ・太りすぎは子牛にも影響！

健康な子牛は健康な母牛からしか生まれない

繁殖成績が悪い、分娩事故が多い、子牛の発育が悪い etc…要因は様々ありますが、その一つに**母牛の栄養状態**があります。「分娩前後で母牛がガリガリに痩せる」「直腸検査時に卵巣が触りにくいほど脂肪がついている」のは、母牛からのSOS。ステージ別に管理を徹底ましょ！

★Point★

- ・泌乳期は維持期の濃厚飼料量 +1~2kg 程度増飼を！
- ・牛群内で体型にバラツキが見られる場合は、飼料計算の実施、性格・体格による群分け、別飼牛房の準備を！
 - ・分娩後に繁殖性が不良な場合、パントテン酸カルシウムやビタミンの投与が効果的な場合もあります。



【削瘦】



【適度】



【過肥】

管理のポイント



腹づくりの要は「良質な粗飼料」！

粗飼料の成分は刈り取り時期によって大きくばらつきます！

自給粗飼料は、刈り取り時期の天候や土壌条件で大きく成分が変わります（表1）。年に1度は**飼料分析**を実施し、成分の確認及び**飼料設計**の見直しをましょ。分析、設計のご相談は振興センターまで☆



【ウマノアシガタ】

危険！



【ドクゼリ】

表1 イタリアンライグラスの刈り取り期別栄養価

	1番草		再生草	
	出穂前	出穂期	出穂前	出穂期
CP (%)	16.4	9.7	15.9	12.2
TDN (%)	57.9	53.4	55.5	50.8

※原物中
※日本標準飼料成分表（2009版）より抜粋

★Point★

- ・黒カビが発生している部分は捨てる
- ・数種類の粗飼料を混合して給与することで栄養成分のバラツキを抑える
- ・ロール時に硝酸態窒素が蓄積する雑草、有毒植物が混入しないように！

病気にさせない！ 疾病は事前に予防

衛生対策はコツコツと。日々の努力が大切です！

哺育期は、初乳からの抗体の減少、ストレスなどにより免疫力が低下しやすく、病気にかかりやすい時期です。**毎日朝夕健康観察**を欠かさず行い、異常があればすぐに獣医師に相談ましょ。

★Point★

- ・牛舎の出入り口には水道を設置、汚水を貯めない水路の確保を！
- ・年に1度、牛がいない状態にして牛房の水洗・消毒を実施ましょ。
- ・6種混合ワクチンを親子全頭接種し、集団免疫を確立ましょ。状況に応じて獣医師とワクチネーションの検討を！



顔や耳が下がっている、鼻が乾く、呼吸が荒い等→SOS！

糞便の状態（性状、色、におい等）をチェック！



コラム 1

～管理のワンポイントアドバイス～



① 親付けの子牛の離乳がうまくいかず、スターターをなかなか食べ込んでくれない・・・



思った以上に離乳ストレスがかかっているようです。子牛だけが出入りできる部屋を作り、母牛と離して飼料を食べさせましょう。また、親付けしつつスムーズな離乳を促す鼻環も市販されています（右写真）。



② 子牛の下痢が治らない・・・何が悪いのかさっぱりわからない。



まずは環境を見直してみましょう！飼養密度は高くないか、基本的な衛生プログラムに抜けはないか、外部導入の頻度・規模はどうか、牛床はアンモニア臭くないか、飲み水は衛生的か、飼料量は適切か etc…複合要因で発症していることもあります。水質分析、飼料分析をする方法もありますので一度ご相談ください！



③ 哺育中の子牛には粗飼料は与えなくていいと聞いた。とにかくスターターを食べさせさえすれば粗飼料はあとからでもいいでしょ？

生後すぐの子牛の胃の大きさは第4胃＞第1胃ですが、その後3ヶ月齢程度で逆転します。粗飼料の給与は第1胃の発達と関係するため、スターターの量は減らさずに、特に柔らかい良質な粗飼料を、最初は一握み程度から始めましょう。



コラム2

～牛伝染性リンパ腫（牛白血病）対策について～

近年発生が増加している牛伝染性リンパ腫ウイルス（EBLV）により引き起こされる牛白血病は、発症すると経済的被害が生じることはもちろん、発症しなくても感染しているだけで他の病気になりやすい、繁殖・肥育成績が悪くなるなどリスクが高い病気です。有効な治療法・ワクチンもないため、個々の農場で感染牛をなくす取り組みが重要です。管内では既に白血病フリーを達成している方、取り組み中の方が複数いらっしゃいます。

🐮感染拡大の原因🐮

水平伝播 …吸血昆虫（アブ等）の媒介・ウイルスを含む体液の直接接触

親子間伝播…感染牛からの分娩、乳汁摂取

人為的伝播…汚染された注射針、直検手袋の使いまわし、除角・去勢・削蹄・耳標や鼻環装着等出血を伴う作業に使用する器具の使いまわし

🐮清浄化に向けて🐮

・全頭抗体検査

まずは自身が飼養する牛が感染しているかどうかを把握しましょう。さらに、1頭ごとの感染の程度を把握することで、その後の管理を具体的にできます。

・感染牛と非感染牛の隔離飼養

直接的接触や吸血昆虫による感染拡大を防ぐため、分離して飼養しましょう（図1）。広大な土地や、特殊で高価な設備は不要で、今の環境を工夫することで清浄化できます。

・母子感染の防止

母牛が軽度に感染している場合、分娩後はすぐに母牛から離し、母牛の初乳は与えずに人工哺育しましょう。母牛が高濃度に感染している場合、胎児も感染する確率が高いため、母子ともに感染していない牛群から分離飼育します。

・日常作業における注意

人為的な感染を広げないために、作業は非感染牛から行いましょう。

・陰性牛の導入

外部より素牛や成牛を導入する際は、陰性が証明された牛を購入しましょう。不明な場合、まずは隔離しておき、抗体検査の結果次第でその後の管理を検討しましょう。

・吸血昆虫対策

アブの発生・隠れ場所となる牛舎周囲の除草、駆除剤の定期的な散布のほか、牛舎や牛房間へのネットの設置、アブトラップ（写真1）の設置が有効です。アブは網目1cm以下のネットが効果的です。二重にして使いましょう。

（農林水産省 牛白血病に関する衛生対策ガイドラインより一部抜粋）

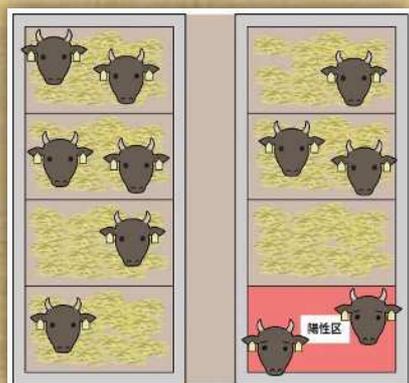


図1 隔離飼養の例



写真1 アブトラップの例

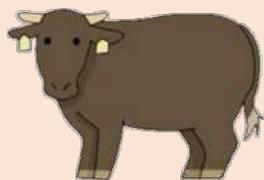
別々の牛舎で飼育することが困難な場合は、牛舎内で感染群と非感染群に分離飼育することも有効です。その際、間に空房を設けるとなお効果的！

農場周囲の環境に応じて設置場所や設置数を検討します。トラップだけで防除することは困難なため、他の対策と併用しましょう！

子牛の発育向上で枝肉成績
& 収益UP を目指そう！☆



ご不明な点は西松浦農業振興センターまで
いつでもお問い合わせください！



佐賀県伊万里農林事務所
西松浦農業振興センター
水田農業・畜産担当
☎ 0955-23-5128

